

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」
発行所
(財)日本友愛青年協会
〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13
TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-mail:yuai@qj8.so-net.ne.jp
http://www.yuaiyouth.or.jp
発行人：川手正一郎
編集人：鶴巻克雄
隔月1回 10日発行
購読料
年額 3,000円

第77回理事会・第70回評議員会開催

平成21年度事業計画・予算決まる

公益法人法の施行を受け活発な議論交わす

平成二十年三月二十七日(金)本郷の鳩山ビル六階会議室において、第七七回理事会及び第七〇回評議員会が開催され、平成二二年度事業計画並びに平成二二年度事業予算が協議され、両議案とも原案通り可決した。また、公益法人法の改正に伴い、(財)日本友愛青年協会が移行する組織の形態について、先に設置された「検討委員会」の答申を受け、これについても協議が行われた。評議員会での協議の結果を受けた理事会は、次回理事会にてその移行先を決定することとした。理事長挨拶(要旨掲載)

財団法人日本友愛青年協会は、祖父鳩山一郎の友愛を原点とし、関係各位のご支援ご協力のもと今日まで五六年の承ぎにわたり活動を続けて参りました。この間、友愛は内外にわたり各種の運動を展開、とくに青少年育成のための山荘運営や国際交流、全国各地での講演会、地域活性化の推進、等々その時代に即した運動を行って参りましたが、就中オーストリア勤労青年連盟(OYAB)との文化芸術交流は本年で二〇年を迎え、中国での植林事業も既に十四回の実績を重ねました。そして、軽井沢の友愛山荘は開設以来四十七年となり、友愛の推進はもとより現在も多くの方々の社会活動を支援し、その時代的役割を果たして参ります。

また、先日、祖父の五十年祭が催され、祖父に縁の方々が大勢ご参会くださいました。その盛会を見るにつけ、時代が「友愛」を必要としている、そんな思いがして参りません。私たち兄弟は昨年「鳩山友愛塾」を発足させました。個の確立をはかり、「自立と共生」の豊かな友愛社会を築くことが、混乱する今こそ必要だと思っております。

財団法人日本友愛青年協会は、これからも積極的に世界に友愛を発信し、新しい時代の創造につながる友愛運動を展開して参りたいと存じます。

第一議案
平成二十一年度事業計画
一、軽井沢友愛山荘運営事業
(一)友愛ドイツ歌曲コンクール優勝者派遣
(二)友愛ドイツ歌曲コンクール優勝者派遣
(三)国際交流事業 派遣事業
(一)友愛ドイツ歌曲コンクール優勝者派遣
(二)友愛ドイツ歌曲コンクール優勝者派遣
(三)国際交流事業 派遣事業

期工事及び福建省アモイ市の第三期工事が候補にあがっている。事業時期：平成二十一年二月～平成二十二年三月の間

四、文化振興 研修事業
平成二二年度 文部科学大臣奨励賞友愛ドイツ歌曲コンクールの開催
趣旨：青少年の音楽文化に対する涵養を促し、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟と協力して、ドイツ歌曲を学ぶ若くは音楽家の育成を目指す。音楽技能の向上を図り、文化交流の一環として音楽文化の発展に寄与する目的で実施する。
期 日：一次予選及び二次予選：平成二十一年一〇月頃 本選：平成二十二年十一月頃 会場：本選及び二次予選/旧東京音楽学校楽堂 一次予選：文京シビックホール(小ホール)

五、他団体との協力事業
中央青少年団体連絡協議会における協力(役員派遣等)
核禁会議における協力
尾崎財団への協力
鳩山友愛塾の支援
補助犬協会への協力

六、刊行物事業
機関紙「友愛」を年六回発行し、各種事業の案内および事業内容の報告、広報活動を行い、広く各界に友愛運動をアピールしていく。ホームページの充実を図り、情報公開につとめる。

第二議案
平成二十一年度予算
原案通り可決

移住先法検討委員会中間報告書
はじめに
平成二〇年十一月一日より現行の公益法人は法により特別民法法人に移行し、公益財団法人、一般財団法人、NPO法人へと衣替えをするか、あるいは解散するか、あるいは別の方法をとるかに義務づけられた。また、移行期間として、平成二十五年十一月三〇日までが設定され、この五年間に移行が完了しなかった法人は自動的に解散と見なされる法改正された。

この法改正の公布を受け平成二〇年三月二六日開催の理事会において、新法検討委員会(設立)と委員長に鶴巻克雄常務理事が指名され、委員は委員長に一任された。

本財団の活動は広く青年の団結を図り、その社会的活動を助成してきたが、時代の変遷とともに軽井沢友愛山荘活動、国際交流活動に特化してきた歴史を有する。

本財団の事業活動について国又は独立行政法人からの助成、補助を受けていない。本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

新法検討委員会検討結果
公益財団法人を目指すか
一般財団法人若しくはNPO法人をも視野に入れ移行先を決定されるよう理事会に提案することとした。

理事会、評議員会では移行先を決定する場合は同時に先定款等制定委員会を立ち上げるよう進言。

結果に至るまでの経過
新法検討委員会は、現行寄付行為と新法で要求されている事項を対比しながら検討を重ねてきた。

本財団は、創立者鳩山一郎他三名の寄付された財産に込められた理念を尊重して新法に対応しなければならぬ。

本財団の活動は広く青年の団結を図り、その社会的活動を助成してきたが、時代の変遷とともに軽井沢友愛山荘活動、国際交流活動に特化してきた歴史を有する。

本財団の事業活動について国又は独立行政法人からの助成、補助を受けていない。本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

本財団の維持経費はその大半を特定個人の寄付によって賄われている。

友愛時評
五月といえは端午の節句、現在は「こどもの日」として祝日である。男の子の節句がこどもの日となり、女の子の桃の節句は、そのまみちな祭りとして祝われているのだから、女の子は一日得をしたことになる。しかし考えを逆転させ少し意地悪く言えば、端午の節句は「こどもの日」として昇格し、桃の節句は「女の子の節句」として残っているのもいえる。勿論針小棒大に男女差別などと云うつもりは全くない。今では一般には馴染みが薄くなったが、「百人一首歌留多」というものがある。基は藤原定家が選をした「小倉百人一首」で、後に戦国時代から歌留多として遊ばれるようになった。一つの和歌を上句と下句に分け、取り札には下の句しか書かれていないので、なにより先に札を取るには、百の和歌を全て暗記していないと分が悪い。私の子どもの頃は競って暗記したものである。この百人の中に、女性が二十一人含まれている。僧侶は十五人である。五分の一は少ないように思えるが、当時の職域の分担を考えると、僧侶に勝る数というのはいくらも立派な作品であるから選ばれているのだが、その選が何の偏見も差別もなく行なわれているのが素晴らしい。人を対等に意識し、評価すること、友愛社会の一つのカタチである。(えい)

Table with 10 columns: 1. 18時, 2. 16時, 3. 14時, 4. 12時, 5. 10時, 6. 8時, 7. 6時, 8. 4時, 9. 2時, 10. 0時. Rows include dates from 平成20年 to 平成21年 and a row for '検討委員会開催記録'.

公益財団法人、一般財団法人ともに会社法と同じ扱いを受ける。公益財団法人は税制上の利点を有するが設立時の監督官庁の認可、認定に課題が多い。

公益財団法人は設立後も毎年事業、財務等について監督官庁の規制を強く受け、公益認定を取り消されるような事態になれば解散を命じられる。

一般財団法人は、剰余金の分配を目的にしなければ公益、共益、収益等の事業を行うことに格別の制限はなく、法人格の取得も公益財団法人に比し簡便である。

本財団の現在の事業規模、事務局体制では公益財団を旨とする報告を受け、移行

先を決める協議に入った。その中で、鳩山由紀夫理事長が、公益財団法人を旨とする報告は、本財団の活動の性格などを鑑み、NPO法人は別枠として考え、一般財団法人を旨とするのが良いのではないかと考えを述べた。また、先に開かれた評議員会でも、同様の協議が行われ、理事会に対し評議員会の一一致した意見として、一般財団法人を旨とする報告が望ましいとの報告が出された。これを受けて協議が行われ、次回第七八回理事会で決定することとした。

予定の議題の協議を終え第七七回理事会・第七〇回評議員会を修了した。

鳩山由紀夫理事長「友愛」を説く

鳩山友愛塾にて講義

連載第二回 真の自由

私は、本当の意味での真の自由というものを得るための政治とは何かということとをしっかりと議論していく必要があるのではないかと考えています。

祖父の一郎が、日本が戦争に負けた半年後、「自由の宣言」というものを著してあります。鳩山一郎が敗戦直後に自分の思いをまとめた、なかなか読みこたえのある小冊子です。

前文に書かれているとこ

ろをちょっと読みますが、「だが、これでは解決したのではない。我々には何の為に自由を確保すべきかといふ任務が与えられてゐる」。実は戦争によって中世期的な封建主義の圧制と軍閥の強権からは自由になつた。ある意味で、日本に負けたおかげで自由を得たのだ。敗戦によって自由を得たのだというフラスコ思考がここに出ています。だが、これでは解決したわけではない。それは寛容の精神を以って、

お互ひの人格を尊重し合ふ家族的な友愛国家を建設する為に、真の自由を獲得することであり、又斯かる国家社会を作りあげることによって、我々は自由なる国民となるのが出来るのである。ここで一郎のいう「自由」という意味が、解つてくるのではないかと思いますが、真の自由を獲得をするというその目的は、人格を尊重し合う家族的な友愛国家を建設したいのだとはっきりと宣言してしま

一郎の「国家の目標」というものがこのように明確に書かれておりまして、私はなかなかいいなと思つています。今年のように報道されてくる親が子供を殺したとか、中学生が親を殺したという事件は、一人一人の人格を尊重し合うということが基本的にできていない社会になってしまったからではないかと、ですから、国家自体も人格を尊重し合う家族的な友愛国家を造りたいという考えです。

人格の尊厳の尊重

これはい過ぎるといけません。パソコンとか携帯電話とか、非常に便利になつて、一人一人の個が閉じこもりがちになつてしまつたと、他の人々に対する「人格の尊厳の尊重」などというよつな発想がまるで消え

てしまつたような恐れがあります。その恐れがあるからこそ、昭和二十一年(一九四六年)という年、もう六十二年も前に、友愛国家の建設を主張した祖父は、先見の明があると思つていま

鳩山一郎の思い

しかしその後、二十一年五月、「自由の宣言」執筆二ヶ月後に、鳩山一郎は「放放」に遭つてしまつて、自由党から離れなければならぬ状況になつてしまつた。鳩山一郎、薫日記に党大会で彼が演説をした要旨が載つておりますので、最後の部分だけご覧になつて下さい。

「私八誤解ニヨリテ今日ノ禍ヲ受ケタマシタ。黨員諸君ノ間ニ相互ニ誤解力アツ

さにお互ひの人格の尊厳というものを尊重する社会でありました。そうでなければ成り立たないのだ。民主主義というものを成り立たせるためには、他人は信じられないのだというよつな発想で民主主義が成り立つわけがないわけ、お互いにお互ひの尊厳というものを高からしめながら尊重していく、そこに民主主義の真髄がある。それが友愛なのだといひたい。

したがって、自由党(かつての自由党)の諸君は、第一党になつて、しかし、残念ながら自分は去るけれども、このよつなことは常に戒めの中で心にとめておくわけであることを主張しているわけでありませぬ。……冷静ないいさんだとな今さらながら感じるわけです。

自由・平等・友愛

私が申し上げたいことは、自由と平等と友愛といふこの三つ、実は必ずしも相剋する、矛盾する考えではないと思ひます。しかしながら、一般的に非常に矛盾するようにも思われがちです。私は、真の意味での本来あるべき自由といふのは、お互いに良心に従つて行動する権利が保障される状態を指すわけでありませぬ、そのためには、当然先ほど申し上げたように、義務といふものも伴つていふことだと思ひます。平等も、同じように、個々人の個性といふものがお互いに理解をされて、十分にそれが発揮されるよつな状況において権利を同じように有することといふのだ。

このように決して真の意

味での理想的な自由、平等、友愛といふものは矛盾するものではないと思ひます。しかしながら、この言葉を別の言葉に変えたほうがよりわかりやすいのではないかと「自由」として、私は「自立」と共生、そしてそれを「コラポレートする」としての友愛」といふ言葉を用いたといひたいと考えております。

自立と共生

すなわち、自由ではなくて「自立」という意味は、それぞれの自己の尊厳というものを高からしめるよつな状況をつくり上げていきたい。自己の尊厳の尊重でありませぬ。そして共生といふのは、他者の尊厳というものを尊重するといふことでありませぬ。ですから、決してこれは矛盾する話ではありません。しかし、その二つがともに必要です。

自分の尊厳を高くするといふことはかなり努力して相手を顧みないといふ精神ではだめだ。自分も高めながら、逆に相手は考え方が違つても、それを認めながら許していこうではないかといふ発想が必要だと思つております。それは、ともに生かされるという意味での「共生」といふ言葉がより合うのではないかと

私には、友愛といふ精神を因数分解すると、自立と共生だ、そのように考えております。また、それをコラポレートするの友愛といふ精神なのだといふこと、自分なりの考え方をまとめております。

(つづく)

第七七回理事会議事録 (抜粋)

議長 議長は、本財団の活動の性格などを鑑み、NPO法人は別枠として考え、一般財団法人を旨とするのが良いのではないかと考えを述べた。また、先に開かれた評議員会でも、同様の協議が行われ、理事会に対し評議員会の一一致した意見として、一般財団法人を旨とする報告が望ましいとの報告が出された。これを受けて協議が行われ、次回第七八回理事会で決定することとした。

出席理事 十三名

一、出席理事 十三名

二、出席理事 十三名

出席監事 田邊克育

出席議員 田邊克育

議長 一任となり、議長は、鶴巻克雄、武田紀念男の2名を指名した。

報告事項

事務局長報告 運営委員会が毎月一回以上開催されている旨が事務局長より報告された。協議内容等に関する詳細は、五月の理事会において、事業報告として報告される。

公益法改正に伴う検討委員会報告 検討委員会が発足以来一回開催された旨が、鶴巻検討委員長より報告された。協議内容、答申に關しては後の議題において発表する旨が伝えられた。

諸規則検討委員会報告 川手正一郎、鶴巻克雄両常務理事、および福田八州雄評議員が就任した旨が、萩原委員長より報告された。

議事

(1) 平成二十一年度事業計画(案)、(2) および事業予算(案)について上記議案の内、事業計画に關して、3月上旬に各人に配布されている「理事会・評議員会要覧」に基づき、事務局より、オーストラリアの青年受入に關しては、音楽家以外を姉妹団体「オーストラリア勤労青年連盟」に希望し、本年度は日本に関心を持つ青年二名が来日し、実施されたなど若干の説明が加えられた。

ドイツ歌曲コンクールに關しては、五月の理事会・評議員会において、二十一年度以降の継続に關して協議して欲しい旨が伝えられた後、協議に入った。

協議の結果、平成二〇年度事業計画(案)、および事業予算(案)については、満場一致で、原案通りこれを承認した。

(3) 公益法改正に伴う本財団の移行先の決定に關しては、上記議案に關しては、先の平成二〇年度第七六回理事会・第六八回評議員会で決定し設置された「検討委員会」よりの中間報告を受けた。中間報告内容、および中間報告に至るまでの詳細に關しては、鶴巻検討委員長より説明があった。(詳細前掲)

(4) その他 「友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール」の二十一年度以降の継続に關して、五月の理事会で検討を図る。

さにお互ひの人格の尊厳というものを尊重する社会でありました。そうでなければ成り立たないのだ。民主主義というものを成り立たせるためには、他人は信じられないのだというよつな発想で民主主義が成り立つわけがないわけ、お互いにお互ひの尊厳というものを高からしめながら尊重していく、そこに民主主義の真髄がある。それが友愛なのだといひたい。

したがって、自由党(かつての自由党)の諸君は、第一党になつて、しかし、残念ながら自分は去るけれども、このよつなことは常に戒めの中で心にとめておくわけであることを主張しているわけでありませぬ。……冷静ないいさんだとな今さらながら感じるわけです。

自由・平等・友愛

私が申し上げたいことは、自由と平等と友愛といふこの三つ、実は必ずしも相剋する、矛盾する考えではないと思ひます。しかしながら、一般的に非常に矛盾するようにも思われがちです。私は、真の意味での本来あるべき自由といふのは、お互いに良心に従つて行動する権利が保障される状態を指すわけでありませぬ、そのためには、当然先ほど申し上げたように、義務といふものも伴つていふことだと思ひます。平等も、同じように、個々人の個性といふものがお互いに理解をされて、十分にそれが発揮されるよつな状況において権利を同じように有することといふのだ。

このように決して真の意

味での理想的な自由、平等、友愛といふものは矛盾するものではないと思ひます。しかしながら、この言葉を別の言葉に変えたほうがよりわかりやすいのではないかと「自由」として、私は「自立」と共生、そしてそれを「コラポレートする」としての友愛」といふ言葉を用いたといひたいと考えております。

自立と共生

すなわち、自由ではなくて「自立」という意味は、それぞれの自己の尊厳というものを高からしめるよつな状況をつくり上げていきたい。自己の尊厳の尊重でありませぬ。そして共生といふのは、他者の尊厳というものを尊重するといふことでありませぬ。ですから、決してこれは矛盾する話ではありません。しかし、その二つがともに必要です。

自分の尊厳を高くするといふことはかなり努力して相手を顧みないといふ精神ではだめだ。自分も高めながら、逆に相手は考え方が違つても、それを認めながら許していこうではないかといふ発想が必要だと思つております。それは、ともに生かされるという意味での「共生」といふ言葉がより合うのではないかと

私には、友愛といふ精神を因数分解すると、自立と共生だ、そのように考えております。また、それをコラポレートするの友愛といふ精神なのだといふこと、自分なりの考え方をまとめております。

(つづく)

鳩山友愛塾 入塾式挙行

第二期生29名が勢揃い

満開の音羽の桜が、入塾生を祝福しています。正に春爛漫の四月七日(火)鳩山友愛塾第二期生入塾式が執行されました。総勢二十九名、新たな一年の始まりです。

四月七日、文京区音羽の鳩山会館に於いて、鳩山友愛塾第二期生入塾式が執行され、第一期生二十九名に井上和子塾長より塾生証並びにバツジが手渡された。

井上和子塾長挨拶(要旨)

皆さん、鳩山友愛塾に入塾おめでとうございませう。満開の桜も、桜吹雪で皆さんを歓迎しているように感じられます。

鳩山友愛塾は、第二期生の長年の夢であり、第一期では忙しい中熱心に講義をしてくださいました。他の講師の先生方も、溢れるような知識の中からも、鳩山友愛塾の塾生に、これだけは伝えたいという熱いメッセージを送ってくださっており、今年も期待に応えてくださるものと確信しております。

ある講演会の折り、アジア・アフリカの子供たちに教育を贈るエスナック教育親グループの代表をしてもらった話です。

エチオピアで象皮病の予防のため子供たちに運動靴をプ



井上和子塾長



鳩山由紀夫塾長代行



平成21年度(第2期)鳩山友愛塾入塾式

はなにかもしれないとも思いません。

この一年間、皆さんは、友愛についても学ぶことになり、友愛の思想は奥が深く、実は私もまだ学習中なので、皆さんとともに学んでいくつもりです。

先月三月一〇日に、皆さんの先輩、第一期生が全員そろって、めでたく卒業されました。一年という短い期間でしたが、自らを高める努力を惜しまない、素晴らしい塾生方でした。

第一期生の皆さんは、後輩たちと交流を持つことを楽しみに待つておられますので、皆さんも積極的にコミュニケーションをとり立てていただきたいと思います。



私と一年目は、「友愛とは何か」ということを、自分なりにひも解いてみました。それをまた今年も、皆様方にお伝えします。

むしろ学ぶことの方が多いのではな

原典の鳩山一郎の友愛、一九五六

年、もう体が悪くて、生きて帰ってこられるかわからないといわれながら、日ソ交渉共同宣言のためにモスクワに赴き、行く前に、友愛青年同志会という、最初の先輩

鳩山由紀夫塾長代行挨拶(要旨)

ようこそ鳩山友愛塾に入塾おめでとうございませう。それと、どんな思いで「友愛」ということに皆様方がお気持ちのか、多分、皆さん千差万別だと思います。それではないかと思えます。

鳩山友愛塾は、政治家を育てるということが目的ではありませんが、それぞれのお仕事の

中では、友愛という気持ちを、精神を、せひ宿していただけて、それを人生で役立たせていただければ、こんなに嬉しいことはありません。

弟の邦夫が公務のため出席出来ないことはとても残念ですが、兄の私からお詫言申上げます。しかし、私たちが兄弟三人は、友愛という思い、これを祖父、一郎が一番ありがた

い財産を譲り受けたんだ。その思いを、私たちがしっかりと受け継ぎ、自分たちも学ばなければならないと思っています。

メンバーですが、彼らを前にして、自分はこれからモスクワに赴く。まだシベリアに抑留されている多くの日本人に、生きて故郷の土を踏ませてやるのが大切なんだ。領土は逃げない。しかし、人の命は限りがある。話をしたそうです。領土問題の解決は果たせませんでした。祖父の気持ち、抑留された方が、無事に帰還させることができたという喜びでいっぱいではなかったかと思っております。大切なこと、私をそのことを常に友愛の原点だと思っています。

皆さん、大いに学んでください。学びましよう。ありがとうございました。



川手正一郎塾長補佐が乾杯

夢のような日々

♪ ウィーンでのコンサート 池田尚子

第十九回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールで、文部科学大臣奨励賞・日本R・シュトラウス協会賞受賞・日本歌曲賞の三賞受賞の栄光に輝いた池田尚子さんが、ウィーンでのコンサートを終え帰国されました。その報告をご紹介します。

二〇〇九年二月二十五日三月四日までウィーンへ八日間の研修旅行に行つて参りました。昨年十一月に友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールで賞を頂いてから出発まで三ヶ月、海外での勉強経験がほとんどない私にとって、とても十分とはいえない準備期間でした。

出発前は伴奏者を初め、お会いする方々とコミュニケーションがうまく取れるだろうかと、私が音楽の本場ウィーンでドイツ歌曲を歌う、果たしてと様々に不安を感じていました。しかし、行ってみるとその不安は不要だったということが分かりました。

ピアノのベニーニさんとはとても素敵な方で、私のことを理解しようと努力してくださりましたし、ドイツ歌曲の表現についても的確なアドバイスをくださいました。

加えて、コンサートのプログラムには日本歌曲も含まれていることから、自ら積極的に日本の文化のことも知ろうと努力していただきました。

初めての練習の音合わせで

鮮やかな彩り着をモチーフにした衣装で

シュスラー会長(左)と共に記念撮影

共演者と共に挨拶 池田さん(右)

ここに行こうか迷うくらい。とても羨ましく思いました。ウィーン滞り最終日、いよいよ私のコンサートが開かれる日です。私の心配をよそに本当にたくさんのお客様が聴きに来てくださりました。最後までとても熱心に聴いてくださったのは勿論ですが、お客様が楽しんでくださっているのが私にも伝わってきて心から嬉しく思いました。

友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールの魅力が、優勝した私のように海外での勉強経験がない者でも、ウィーンでの演奏会に出演させていただけることではないでしょうか。ウィーンに憧れ、現地で活躍しているピアノの方と一緒にドイツ歌曲の勉強をさせていただけると、それだけでも夢のようなことな

ら、コンサートにも出演できるなんて。今後多数多くの方がこのような体験を出来るよう、友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールのご発展を願っています。

最後になりましたが、私がこのように貴重な経験をすることが出来たのも、日本友愛青年協会と、姉妹団体オーストリア勤労青年連盟のおかげと、心より感謝いたしております。

この賞を頂いたことを誇りに思い、自分の歌を磨いていくことはもとより、この経験を多くの人に伝えていけたらと思っております。



見た・学んだ・考えた

第13次植林訪中団参加体験記

谷藤 宰

今回、私にとって二回目の訪問でしたが、新たな発見の連続でした。

この世界には、一体全体どのような物があるのか、どのような物があるのか、そして何より世界にはどのような人達がいるのか？ この疑問を日本人として、中国の湖北省から見ました。

湖北省から見た中国は、自然豊かで、そして人々は活気が溢れていました。

日本のみならず世界の経済学者の中にも、今後世界を引っ張っていくのは、米国ではなく、中国だという人達もいますが、今回の旅を通じて、そのように主張する理由も分かったように感じました。

しかし、今回の旅を通じて、一番強く感じたことは、中国の学生たちの意欲です。同じ学生、同じ将来を担っていく友達として、自分に足りないもの、そして



田中さん・谷藤さん・白谷さん(左から)



急な傾斜地にミカンの苗を植林



植林現場、記念碑の前で



揚子江を上る船で交流歌合戦

日中緑化交流基金による、第13次植林訪中団は湖北省シキ県での活動を行った(友愛 四九七号・一月号既報)。参加者の中で早稲田大学の同級生三人組が、その感想を本紙に寄せてくれた。二十歳の青年が見た中国植林活動の成果の一つとしてご紹介したい。

三つ目の植林活動では、現地の大勢の方々に迎え入れられました。中国の生の生活に触れることができた。決して物質的には豊かとは言いえない暮らしをしている植林現場の村の人々に接して、様々なことを私なりに考えさせられました。

そして最後の四つ目は、自分と同じ世代の中国の大學生と出会えて、仲良くなれたことです。今振り返ってみても、このような密度の濃い体験はなかなか経験できないものだと思えます。滞在時間ではなく、どのように、どんな気持ちで接するかだと思います。

白谷 智成

私は、今回友人の紹介でこの日本友愛青年協会(中国)の植林事業に参加しました。わずか四日、移動日を含めると、実質二日の滞在でしたが、様々な貴重な体験をすることができました。

それは大きく分けて四つあります。

まずは三峽ダム。この三峽ダムを通じて、中国という国のスケールの大きさと、技術力の高さを肌で感じる事ができました。

田中 達也

二つ目は食事。食事に際しても日本の食文化との違いを経験できる食事でした。日本で食べるいわゆる「中華料理」との違いも、驚いたことの一つです。

今回が初めての植林活動に参加であったため、不安と緊張に包まれたまま出発の当日を迎えました。

中国は初めての訪問で、初めて見る共産主義国がどのようなものなのかという不安もありました。

しかし、実際には、行く先々の多くの方が暖かい目で見てくださっており、大変有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。

一部の報道による情報のみに頼った結果生まれる偏見を取り払うためには、実際に自分の目で見て、自分の鼻で嗅ぎ、自分の足で歩き、自分の肌に触れさせることが一番有効であり、一番すべきことだと感じました。

今後、日中に限らず諸外国との友好的な関係を築いていくために、偏見をなくすることは一番基本的なことであり、一番重要なことだと思えました。そのことが解決したというも、今回のプロジェクトに参加した結果だと思えます。

このようなプロジェクトに参加できたことは、大変貴重な体験だったと思ひ、参加させていただいたことに深く感謝しています。

軽井沢友愛山荘

あふれる緑がお迎えます

軽井沢友愛山荘は、四月一日より稼働しています。庭の手入れも済み、緑の芝生、新緑の木々が皆様をお待ちいたしております。

全館畳替え

本年は、全館畳替えを行いました。真つ青な香りあふれる畳をお楽しみいただけます。

寢具も刷新

各部屋の寢具も、新しいものを導入いたしました。これで全ての寢具が、敷き布団は羊毛布団、掛け布団は羽毛布団になりました。夏は涼しく、冬は暖かい組み合わせです。

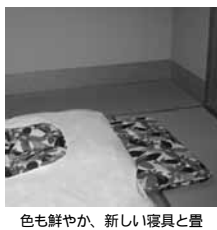
バスルームの安全

昨年好評をいただきました「お茶の香り」の入浴剤は、今年もご用意いたしました。爽やかな緑とお茶の香りで、ゆっくりリラックス、バスタイムをお楽しみください。

また、風呂場には浴槽に手すりステップ、滑り止めマットを取り付けました。安心してご利用いただけます。

食事メニューも充実

皆様から「おいしい」「量もたっぷり」とご好評



色も鮮やか、新しい寝具と畳



浴槽の手すりステップ

軽井沢友愛山荘利用料金表

個人利用料金	団体利用料金		
	5-9名	10-15名	16名以上
一般	10,000	7,000	6,000
会員紹介	9,000	6,500	6,000
賛助会員	7,000	6,000	5,500
学生	7,000	6,000	5,500

の食事も益々充実です。友愛山荘オリジナルワイン、お土産にも好評です。

* 夏休み期間も若干の空きがあります。(五月現在)

* 五名からの団体割引をご利用ください。

軽井沢友愛山荘

私の郷里では、桜と桃と一緒に咲き、今年は言葉通りの素晴らしい桃源郷だったの素晴らしい。しかし、そんな現象が続くと季節感がうすれ、旬の感覚や自然の移ろい感がなくなり、人間としての感動や感激まで年々退化していくように思われてなりません。茄子やトマトは常に店頭並び、初めのフレッシュ感が無く、このままでは自然や動物に対する人間の考え方が変わってしまうのではないかと切実に思う昨今です。(K)

五月は新緑の季節です。つい先頃まで枝だけだと思えていた木々が薄黄緑色の芽をふき、あつという間にツヤツヤとした緑におおわれています。自然の力、木々の生命力、季節が巡ることに感動する一瞬です。緑を眺めることは目にも良いそうですが、萌える緑は命の息吹に溢れていて心に体が漲ってきて、私にとっては元氣回復の最高の特効薬です。軽井沢友愛山荘は、今まさにその季節、緑にとっぷりです。(モ)

新緑の候、この季節の軽井沢は、緑が目眩しく、澄み切った空気の中に鳥たちのさえずりが聞こえる、実は一番お薦めの季節なのです。北に数日足を延ばすと、地下水が豊富な糸と流れる「白糸の滝」もありです。眺めているだけで心が洗われます。この季節には是非軽井沢友愛山荘をご利用して軽井沢を楽しんでください。(エム)

ホームページが新しくなりました
<http://www.yuaiyouthor.jp>
 是非一度アクセスしてみてください

財団法人 日本友愛青年協会
 〒206-8604 東京都文京区小塚1-10-13
 TEL: 03-5684-2188 FAX: 03-5684-2189

● ホームページがリニューアルされました！
 ● 第14回友愛デーの企画(リトリート)コンクール、結果発表はこちら
 ● 第14回友愛デーの企画(リトリート)コンクール、来週の2月28日(土)は、結果発表です。
 ● 軽井沢友愛山荘、1月1日(土)～14日からの宿泊予約は12月23日(土)までです。
 ● 第12文、第13文、第14文、第15文、第16文、第17文、第18文、第19文、第20文、第21文、第22文、第23文、第24文、第25文、第26文、第27文、第28文、第29文、第30文、第31文、第32文、第33文、第34文、第35文、第36文、第37文、第38文、第39文、第40文、第41文、第42文、第43文、第44文、第45文、第46文、第47文、第48文、第49文、第50文、第51文、第52文、第53文、第54文、第55文、第56文、第57文、第58文、第59文、第60文、第61文、第62文、第63文、第64文、第65文、第66文、第67文、第68文、第69文、第70文、第71文、第72文、第73文、第74文、第75文、第76文、第77文、第78文、第79文、第80文、第81文、第82文、第83文、第84文、第85文、第86文、第87文、第88文、第89文、第90文、第91文、第92文、第93文、第94文、第95文、第96文、第97文、第98文、第99文、第100文、第101文、第102文、第103文、第104文、第105文、第106文、第107文、第108文、第109文、第110文、第111文、第112文、第113文、第114文、第115文、第116文、第117文、第118文、第119文、第120文、第121文、第122文、第123文、第124文、第125文、第126文、第127文、第128文、第129文、第130文、第131文、第132文、第133文、第134文、第135文、第136文、第137文、第138文、第139文、第140文、第141文、第142文、第143文、第144文、第145文、第146文、第147文、第148文、第149文、第150文、第151文、第152文、第153文、第154文、第155文、第156文、第157文、第158文、第159文、第160文、第161文、第162文、第163文、第164文、第165文、第166文、第167文、第168文、第169文、第170文、第171文、第172文、第173文、第174文、第175文、第176文、第177文、第178文、第179文、第180文、第181文、第182文、第183文、第184文、第185文、第186文、第187文、第188文、第189文、第190文、第191文、第192文、第193文、第194文、第195文、第196文、第197文、第198文、第199文、第200文、第201文、第202文、第203文、第204文、第205文、第206文、第207文、第208文、第209文、第210文、第211文、第212文、第213文、第214文、第215文、第216文、第217文、第218文、第219文、第220文、第221文、第222文、第223文、第224文、第225文、第226文、第227文、第228文、第229文、第230文、第231文、第232文、第233文、第234文、第235文、第236文、第237文、第238文、第239文、第240文、第241文、第242文、第243文、第244文、第245文、第246文、第247文、第248文、第249文、第250文、第251文、第252文、第253文、第254文、第255文、第256文、第257文、第258文、第259文、第260文、第261文、第262文、第263文、第264文、第265文、第266文、第267文、第268文、第269文、第270文、第271文、第272文、第273文、第274文、第275文、第276文、第277文、第278文、第279文、第280文、第281文、第282文、第283文、第284文、第285文、第286文、第287文、第288文、第289文、第290文、第291文、第292文、第293文、第294文、第295文、第296文、第297文、第298文、第299文、第300文、第301文、第302文、第303文、第304文、第305文、第306文、第307文、第308文、第309文、第310文、第311文、第312文、第313文、第314文、第315文、第316文、第317文、第318文、第319文、第320文、第321文、第322文、第323文、第324文、第325文、第326文、第327文、第328文、第329文、第330文、第331文、第332文、第333文、第334文、第335文、第336文、第337文、第338文、第339文、第340文、第341文、第342文、第343文、第344文、第345文、第346文、第347文、第348文、第349文、第350文、第351文、第352文、第353文、第354文、第355文、第356文、第357文、第358文、第359文、第360文、第361文、第362文、第363文、第364文、第365文、第366文、第367文、第368文、第369文、第370文、第371文、第372文、第373文、第374文、第375文、第376文、第377文、第378文、第379文、第380文、第381文、第382文、第383文、第384文、第385文、第386文、第387文、第388文、第389文、第390文、第391文、第392文、第393文、第394文、第395文、第396文、第397文、第398文、第399文、第400文、第401文、第402文、第403文、第404文、第405文、第406文、第407文、第408文、第409文、第410文、第411文、第412文、第413文、第414文、第415文、第416文、第417文、第418文、第419文、第420文、第421文、第422文、第423文、第424文、第425文、第426文、第427文、第428文、第429文、第430文、第431文、第432文、第433文、第434文、第435文、第436文、第437文、第438文、第439文、第440文、第441文、第442文、第443文、第444文、第445文、第446文、第447文、第448文、第449文、第450文、第451文、第452文、第453文、第454文、第455文、第456文、第457文、第458文、第459文、第460文、第461文、第462文、第463文、第464文、第465文、第466文、第467文、第468文、第469文、第470文、第471文、第472文、第473文、第474文、第475文、第476文、第477文、第478文、第479文、第480文、第481文、第482文、第483文、第484文、第485文、第486文、第487文、第488文、第489文、第490文、第491文、第492文、第493文、第494文、第495文、第496文、第497文、第498文、第499文、第500文、第501文、第502文、第503文、第504文、第505文、第506文、第507文、第508文、第509文、第510文、第511文、第512文、第513文、第514文、第515文、第516文、第517文、第518文、第519文、第520文、第521文、第522文、第523文、第524文、第525文、第526文、第527文、第528文、第529文、第530文、第531文、第532文、第533文、第534文、第535文、第536文、第537文、第538文、第539文、第540文、第541文、第542文、第543文、第544文、第545文、第546文、第547文、第548文、第549文、第550文、第551文、第552文、第553文、第554文、第555文、第556文、第557文、第558文、第559文、第560文、第561文、第562文、第563文、第564文、第565文、第566文、第567文、第568文、第569文、第570文、第571文、第572文、第573文、第574文、第575文、第576文、第577文、第578文、第579文、第580文、第581文、第582文、第583文、第584文、第585文、第586文、第587文、第588文、第589文、第590文、第591文、第592文、第593文、第594文、第595文、第596文、第597文、第598文、第599文、第600文、第601文、第602文、第603文、第604文、第605文、第606文、第607文、第608文、第609文、第610文、第611文、第612文、第613文、第614文、第615文、第616文、第617文、第618文、第619文、第620文、第621文、第622文、第623文、第624文、第625文、第626文、第627文、第628文、第629文、第630文、第631文、第632文、第633文、第634文、第635文、第636文、第637文、第638文、第639文、第640文、第641文、第642文、第643文、第644文、第645文、第646文、第647文、第648文、第649文、第650文、第651文、第652文、第653文、第654文、第655文、第656文、第657文、第658文、第659文、第660文、第661文、第662文、第663文、第664文、第665文、第666文、第667文、第668文、第669文、第670文、第671文、第672文、第673文、第674文、第675文、第676文、第677文、第678文、第679文、第680文、第681文、第682文、第683文、第684文、第685文、第686文、第687文、第688文、第689文、第690文、第691文、第692文、第693文、第694文、第695文、第696文、第697文、第698文、第699文、第700文、第701文、第702文、第703文、第704文、第705文、第706文、第707文、第708文、第709文、第710文、第711文、第712文、第713文、第714文、第715文、第716文、第717文、第718文、第719文、第720文、第721文、第722文、第723文、第724文、第725文、第726文、第727文、第728文、第729文、第730文、第731文、第732文、第733文、第734文、第735文、第736文、第737文、第738文、第739文、第740文、第741文、第742文、第743文、第744文、第745文、第746文、第747文、第748文、第749文、第750文、第751文、第752文、第753文、第754文、第755文、第756文、第757文、第758文、第759文、第760文、第761文、第762文、第763文、第764文、第765文、第766文、第767文、第768文、第769文、第770文、第771文、第772文、第773文、第774文、第775文、第776文、第777文、第778文、第779文、第780文、第781文、第782文、第783文、第784文、第785文、第786文、第787文、第788文、第789文、第790文、第791文、第792文、第793文、第794文、第795文、第796文、第797文、第798文、第799文、第800文、第801文、第802文、第803文、第804文、第805文、第806文、第807文、第808文、第809文、第810文、第811文、第812文、第813文、第814文、第815文、第816文、第817文、第818文、第819文、第820文、第821文、第822文、第823文、第824文、第825文、第826文、第827文、第828文、第829文、第830文、第831文、第832文、第833文、第834文、第835文、第836文、第837文、第838文、第839文、第840文、第841文、第842文、第843文、第844文、第845文、第846文、第847文、第848文、第849文、第850文、第851文、第852文、第853文、第854文、第855文、第856文、第857文、第858文、第859文、第860文、第861文、第862文、第863文、第864文、第865文、第866文、第867文、第868文、第869文、第870文、第871文、第872文、第873文、第874文、第875文、第876文、第877文、第878文、第879文、第880文、第881文、第882文、第883文、第884文、第885文、第886文、第887文、第888文、第889文、第890文、第891文、第892文、第893文、第894文、第895文、第896文、第897文、第898文、第899文、第900文、第901文、第902文、第903文、第904文、第905文、第906文、第907文、第908文、第909文、第910文、第911文、第912文、第913文、第914文、第915文、第916文、第917文、第918文、第919文、第920文、第921文、第922文、第923文、第924文、第925文、第926文、第927文、第928文、第929文、第930文、第931文、第932文、第933文、第934文、第935文、第936文、第937文、第938文、第939文、第940文、第941文、第942文、第943文、第944文、第945文、第946文、第947文、第948文、第949文、第950文、第951文、第952文、第953文、第954文、第955文、第956文、第957文、第958文、第959文、第960文、第961文、第962文、第963文、第964文、第965文、第966文、第967文、第968文、第969文、第970文、第971文、第972文、第973文、第974文、第975文、第976文、第977文、第978文、第979文、第980文、第981文、第982文、第983文、第984文、第985文、第986文、第987文、第988文、第989文、第990文、第991文、第992文、第993文、第994文、第995文、第996文、第997文、第998文、第999文、第1000文、第1001文、第1002文、第1003文、第1004文、第1005文、第1006文、第1007文、第1008文、第1009文、第1010文、第1011文、第1012文、第1013文、第1014文、第1015文、第1016文、第1017文、第1018文、第1019文、第1020文、第1021文、第1022文、第1023文、第1024文、第1025文、第1026文、第1027文、第1028文、第1029文、第1030文、第1031文、第1032文、第1033文、第1034文、第1035文、第1036文、第1037文、第1038文、第1039文、第1040文、第1041文、第1042文、第1043文、第1044文、第1045文、第1046文、第1047文、第1048文、第1049文、第1050文、第1051文、第1052文、第1053文、第1054文、第1055文、第1056文、第1057文、第1058文、第1059文、第1060文、第1061文、第1062文、第1063文、第1064文、第1065文、第1066文、第1067文、第1068文、第1069文、第1070文、第1071文、第1072文、第1073文、第1074文、第1075文、第1076文、第1077文、第1078文、第1079文、第1080文、第1081文、第1082文、第1083文、第1084文、第1085文、第1086文、第1087文、第1088文、第1089文、第1090文、第1091文、第1092文、第1093文、第1094文、第1095文、第1096文、第1097文、第1098文、第1099文、第1100文、第1101文、第1102文、第1103文、第1104文、第1105文、第1106文、第1107文、第1108文、第1109文、第1110文、第1111文、第1112文、第1113文、第1114文、第1115文、第1116文、第1117文、第1118文、第1119文、第1120文、第1121文、第1122文、第1123文、第1124文、第1125文、第1126文、第1127文、第1128文、第1129文、第1130文、第1131文、第1132文、第1133文、第1134文、第1135文、第1136文、第1137文、第1138文、第1139文、第1140文、第1141文、第1142文、第1143文、第1144文、第1145文、第1146文、第1147文、第1148文、第1149文、第1150文、第1151文、第1152文、第1153文、第1154文、第1155文、第1156文、第1157文、第1158文、第1159文、第1160文、第1161文、第1162文、第1163文、第1164文、第1165文、第1166文、第1167文、第1168文、第1169文、第1170文、第1171文、第1172文、第1173文、第1174文、第1175文、第1176文、第1177文、第1178文、第1179文、第1180文、第1181文、第1182文、第1183文、第1184文、第1185文、第1186文、第1187文、第1188文、第1189文、第1190文、第1191文、第1192文、第1193文、第1194文、第1195文、第1196文、第1197文、第1198文、第1199文、第1200文、第1201文、第1202文、第1203文、第1204文、第1205文、第1206文、第1207文、第1208文、第1209文、第1210文、第1211文、第1212文、第1213文、第1214文、第1215文、第1216文、第1217文、第1218文、第1219文、第1220文、第1221文、第1222文、第1223文、第1224文、第1225文、第1226文、第1227文、第1228文、第1229文、第1230文、第1231文、第1232文、第1233文、第1234文、第1235文、第1236文、第1237文、第1238文、第1239文、第1240文、第1241文、第1242文、第1243文、第1244文、第1245文、第1246文、第1247文、第1248文、第1249文、第1250文、第1251文、第1252文、第1253文、第1254文、第1255文、第1256文、第1257文、第1258文、第1259文、第1260文、第1261文、第1262文、第1263文、第1264文、第1265文、第1266文、第1267文、第1268文、第1269文、第1270文、第1271文、第1272文、第1273文、第1274文、第1275文、第1276文、第1277文、第1278文、第1279文、第1280文、第1281文、第1282文、第1283文、第1284文、第1285文、第1286文、第1287文、第1288文、第1289文、第1290文、第1291文、第1292文、第1293文、第1294文、第1295文、第1296文、第1297文、第1298文、第1299文、第1300文、第1301文、第1302文、第1303文、第1304文、第1305文、第1306文、第1307文、第1308文、第1309文、第1310文、第1311文、第1312文、第1313文、第1314文、第1315文、第1316文、第1317文、第1318文、第1319文、第1320文、第1321文、第1322文、第1323文、第1324文、第1325文、第1326文、第1327文、第1328文、第1329文、第1330文、第1331文、第1332文、第1333文、第1334文、第1335文、第1336文、第1337文、第1338文、第1339文、第1340文、第1341文、第1342文、第1343文、第1344文、第1345文、第1346文、第1347文、第1348文、第1349文、第1350文、第1351文、第1352文、第1353文、第1354文、第1355文、第1356文、第1357文、第1358文、第1359文、第1360文、第1361文、第1362文、第1363文、第1364文、第1365文、第1366文、第1367文、第1368文、第1369文、第1370文、第1371文、第1372文、第1373文、第1374文、第1375文、第1376文、第1377文、第1378文、第1379文、第1380文、第1381文、第1382文、第1383文、第1384文、第1385文、第1386文、第1387文、第1388文、第1389文、第1390文、第1391文、第1392文、第1393文、第1394文、第1395文、第1396文、第1397文、第1398文、第1399文、第1400文、第1401文、第1402文、第1403文、第1404文、第1405文、第1406文、第1407文、第1408文、第1409文、第1410文、第1411文、第1412文、第1413文、第1414文、第1415文、第1416文、第1417文、第1418文、第1419文、第1420文、第1421文、第1422文、第1423文、第1424文、第1425文、第1426文、第1427文、第1428文、第1429文、第1430文、第1431文、第1432文、第1433文、第1434文、第1435文、第1436文、第1437文、第1438文、第1439文、第1440文、第1441文、第1442文、第1443文、第1444文、第1445文、第1446文、第1447文、第1448文、第1